

研究紀要第235号

F9 - 01

心の教育を行うための教員研修に関する研究

- 定期教育相談を中心として -

平成 14 年 2 月

岡山県教育センター

ま え が き

岡山県教育センターでは、教育に関する専門的、技術的事項の調査研究、教育関係職員の研修、教育相談、教育情報の収集・蓄積・発信等の諸事業を行っております。特に、調査研究におきましては、国の教育改革の動向と本県の教育課題を踏まえ、幾つかの研究主題を設定し、共同研究・個人研究・プロジェクト研究を行い、その成果の提供と普及に努めております。

文部科学省の「生徒指導上の諸問題の現状について（概要）」（平成13年12月）によると、不登校を理由に年間30日以上登校できなかった児童生徒数、高等学校中途退学者数、暴力行為の発生件数共に、平成12年度は前年度より増加しています。

このように、児童生徒の学校不適応が増加する中、中央教育審議会は平成10年6月に「新しい時代を拓く心を育てるために - 次世代を育てる心を失う危機 -」（答申）を公表し、心の教育の必要性を強調しました。

当教育センターにおきましても、学校教育相談研修講座、道徳実践講座、一人一人を生かす学級経営研修講座などの研修講座の実施を通して、心の教育を行う上での教員の認識を深め、指導力の向上を図ってまいりました。

こうした取り組みの中で、以前よりは教員の認識が高まり指導力は向上していると思われませんが、心の教育を行うための基本的な条件の一つである教師と児童生徒の人間関係を育てる活動は、多忙化する学校現場では十分に行われているとは言えない現状にあります。

本研究は、児童生徒と教員が人間関係を育てていくための具体的な研修用教材を作成し、研修の進め方を示し、各校での校内研修を支援しようとしています。本研究の成果を日々の教育実践の中でご活用いただければ幸いです。

終わりにになりましたが、この研究を進めるに当たり、実践研究にご協力いただきました協力委員の先生方並びに関係各位に厚くお礼申し上げます。

平成14年2月

岡山県教育センター所長
門 野 八 洲 雄

目 次

はじめに.....	1
研究の目的.....	1
研究の内容.....	1
1 心の教育の進め方.....	2
2 心の教育と心理教育.....	2
(1) 構成的グループエンカウンター.....	2
(2) グループワークトレーニング.....	3
(3) ソーシャルスキル教育.....	3
(4) リラクゼーション.....	3
3 心の教育と人間関係.....	4
4 定期教育相談の進め方.....	5
(1) 目的.....	5
(2) 内容.....	5
(3) 主な支援の種類.....	5
(4) 留意点.....	5
(5) 実施方法.....	5
5 研修用ビデオ「定期教育相談の進め方」の作成.....	6
(1) ねらい.....	6
(2) 作成上の留意点.....	7
(3) 作成.....	7
6 ビデオ教材を使った研修モデル.....	12
(1) ビデオ教材の視聴のみ.....	12
(2) ビデオ教材の視聴と協議.....	12
(3) ビデオ教材の視聴と演習 1.....	12
(4) ビデオ教材の視聴と演習 2.....	13
7 定期教育相談の進め方の研修例.....	14
(1) 校内研修（小学校）.....	14
(2) 校内研修（中学校）.....	17
(3) 初任者研修（中学校）.....	18
8 研修例から学ぶもの.....	21
(1) ビデオ教材の内容.....	21
(2) 研修の進め方.....	21
おわりに.....	21

研究の概要

本研究では、心の教育を進めていくために必要な教師と児童生徒の人間関係を育てる機会として定期教育相談に注目した。定期教育相談を効果的に行うための教員研修用のビデオ教材を作成して、ビデオ教材を使用するいくつかの研修モデルを示した。そして、ビデオ教材の視聴と演習を組み合わせた教員研修を行い、研修を効果的に進めるための方法を提案した。

キ・ワ・ド 心の教育，心理教育，教員研修，定期教育相談，ビデオ教材

はじめに

文部科学省の「生徒指導上の諸問題(概要)」⁷⁾(平成13年12月)によると、わが国の学校では、平成12年度の暴力行為の発生件数は学校内が34,595件で前年と比べて11.4%も増加している。また、学校外の暴力行為も5,779件で、前年より4.6%増加している。平成12年度の不登校の児童生徒数は、134,286人で前年より3.1%増加している。そして、高校学校中途退学者は、109,146人で、前年度より2.4%増加している。このように、学校不適應の問題は依然として深刻な状況にある。

平成8年の中央教育審議会第1次答申は、いじめや不登校問題の取り組みとして、家庭・地域社会の取り組みの重要性、学校の在り方そのものが問われる問題であること、教育関係者の取り組みの一層の充実、教育相談体制を充実する上で教員以外の専門家の協力を求めることが不可欠であること、開かれた学校運営、子どもの生活において学校が大きな存在であること、研究の推進の必要性、を挙げている。

さらに、平成10年6月の中央教育審議会答申「新しい時代を拓く心を育てるために - 次世代を育てる心を失う危機 - 」では、心を育てる場としての学校を見直すことの必要性を述べている。さらに、同答申では、カウンセリングの充実として、スクールカウンセラーに相談できる体制を充実しよう、スクールカウンセラーの養成の充実を図ろう、教員はカウンセリングマインドを身につけよう、「心の居場所」としての保健室の役割を重視しよう、を挙げている。

文部省は、中学校学習指導要領(平成10年12月)解説 - 特別活動編 - で「生徒の生活体験の不足、人間関係や連帯感の希薄化、集団や社会の一員と

しての自覚や責任感の低下などが指摘される今日、特別活動においても心の教育の充実を目指し、家庭や地域と協力し連携を深めながら、自然や文化との触れ合い、地域の人々との幅広い交流など、自然体験や社会体験等の充実を図ることが大切である。」¹⁾と述べている。中学校学習指導要領(平成10年12月)解説 - 道徳編 - では、「子どもたちに必要とされる『生きる力』の核となる豊かな人間性とは、美しいものや自然に感動する心などの柔らかな感性、正義感や公正さを重んじる心、生命を大切に、人権を尊重する心などの基本的な倫理観、他人を思いやる心や社会貢献の精神、自立心、自己抑制力、責任感、他者との共生や異質なものへの寛容、などの感性や道徳的価値を大切に作る心であるととらえられる。このような力を育てるのが、心の教育であり、道徳教育なのである。」²⁾と述べている。

このように、心の教育の必要性が言われている中、何をどのように進めていくかについてはある程度の実践がまとめられているが、心の教育を行うために教員がどのような研修をしておく必要があるかについては、ほとんど研究されていない。そこで本研究では、心の教育を進めるために必要な教員研修について研究していきたい。

研究の目的

- 1 心の教育の進め方についてまとめる。
- 2 定期教育相談の教員研修用のビデオ教材を作成する。
- 3 定期教育相談に関する教員研修を行い、効果的な研修の進め方を提案する。

研究の内容

1 心の教育の進め方

心の教育で児童生徒の何を育てるのかということについて、押谷(1998)は「第一に『～の心』『～する心』などといった用法から心の教育を考える場合、道徳的価値の総合体としての心の育成という課題がある。第二に『～としての心』という用法からは、社会的性格としての心の育成という課題がある。第三に『心が～(である)』という用法からは、意識的・感覚的存在としての心の育成の課題がある。それらをうまくからませて心の教育を展開していく必要がある。」³⁾と述べ、どのような側面から心を育てていけばよいかについて分類している。その中の道徳的価値の総合体としての心の育成については、従来から道徳教育が最も力を入れてきたことがらである。また、社会的性格としての心の育成と、意識的・感覚的存在としての心の育成は、主に特別活動などで行われてきた。

心の教育を、教育活動のどの場面で展開していくのかについて、児島(2000)は「心の教育は、学校の教育活動全体を通じて行われるものである。したがって、道徳の時間はもとより、各教科、特別活動のほか、新しく創設された総合的な学習の時間を含めて学級経営や生徒指導など、日常の学校生活を通じて、それぞれの特質に応じて、適切な指導を行うことになる。- 中略 - 道徳教育の充実とともに、心身の健康の保持増進、なかでも心の健康が強調されたのが、心の教育のもう一つの留意点である。- 中略 - 具体的には、心の発達、心身相関、不安や悩みへの対処、人とのかかわり方、自分らしさの形成、ストレスへの対処などが、特にここで扱われることとなる。」⁴⁾と道徳教育を中心としたすべての教育活動で心の教育を進めていくことの必要性を述べた上で、特別活動を中心とした心の健康の大切さを述べている。

2 心の教育と心理教育

心の健康教育という意味での心の教育について、岡林(1997)は「子どもたちが『思いやり・共感』の欠如によって、いじめなどの攻撃性の問題が起こり、社会適応できなくなっている、という考え方が一般的になってきた。そこ

で、そのような状況に対応するために考えられたのが、心の教育という意味での『心理教育』である。」⁵⁾と述べ、心の教育を行うための一つの方法として心理教育という考えを示している。そして心理教育を「心理教育とは、生徒たちに心理的なスキル(傾聴スキル、自己主張スキル、攻撃性対処スキルなどの対人関係スキル)を教授することに焦点をあてた教育フレームからの広い意味でのカウンセリングのアプローチである。」⁶⁾と定義している。

その心理教育を行う活動として構成的グループエンカウンター、グループワークトレーニング、ソーシャルスキル教育、リラクゼーションなどが最近注目されている。

(1) 構成的グループエンカウンター

エンカウンター・グループの一技法であり、手続きがかなり構造化されているのが特徴である。特定の課題(エクササイズ)を行うことにより、自己理解、他者理解、自己受容、自己主張、感受性の発達などをねらいとする。また、児童生徒相互、教師と児童生徒間の人間関係を育てることも期待できる。

手順としては、
導入

その時間のねらいと大まかな内容を説明する。

ウォーミングアップ

軽いエクササイズを短時間で行い、心と身体の緊張をほぐす。

インストラクション

エクササイズの実施方法やねらい、ルールなどを説明する。

エクササイズ

中心になるエクササイズを行う。

シェアリング

小グループでエクササイズを行った時の気持ちや終わってからの感想を話し合い、エクササイズを振り返る。振り返り用紙に記入してから話し合うこともある。シェアリングを行うことにより、単なるレクリエーションとは異なってくる。

まとめ

教員が児童生徒の活動を見て気付いたことなどをフィードバックする。

実施上の留意点としては

- ア 児童生徒の様子を最初から観察しておく。
- イ エクササイズにうまく入れない児童生徒に対し適切な配慮をする。恥ずかしかったり、拒否的だったりしてエクササイズに参加できにくい児童生徒には教員の補助役を頼むなどして、個別に対応する。

ウ 参加を無理強いしない。

エ 場合によっては、個別のケアをする。

拒否的な児童生徒、エクササイズで自己開示をしすぎて落ち込んでいる児童生徒、自己理解の深まりに伴って自己嫌悪に陥っている児童生徒、他の児童生徒への怒りや憎しみが処理しきれなくて困っている児童生徒などが、その対象になる。

オ 年間計画を立てて実施する。

1学期の初めは人間関係づくりを主体にするもの、2学期以降は自己理解や自己主張をねらったものを行うとよい。

(2) グループワークトレーニング

個人の心理的成長、教育、訓練、心理的治療などを目的として、集団の機能などを用いる技法の一つである。与えられた課題を達成するためにグループで作業を行い、その過程で、協力の仕方や、情報の伝え方・聞き方、合意を得るための方法などを学ぶ集団参加能力に関するものがある。また、様々な活動を通じて、自他に起こったことを振り返り、自他の関係を見つめ、かわり方を改善していく機能を持つこともある。

(3) ソーシャルスキル教育

人間関係の持ち方について不足している知識を学び、不適切な行動を改善し、より社会的に望ましい行動を新たに獲得していくための教育である。ソーシャルスキルには次の四つの構成要素がある。

人間関係についての基本的な知識

友達の遊びに加えてもらうにはどうすればよいのか、初対面の人に会うときにはどう接すればよいのかなど、適切な対人行動について基本的な知識を教える。人間関係に関する一定のルールやマナーについても教える必要がある。

他者の思考と感情の理解の仕方

相手の言葉の理解の仕方、相手の表情や身振

りから意図や隠されている感情を読み取る方法を教える。

自分の思考と感情の伝え方

自分の考えていることや、感じていることを、言語的側面と非言語的側面の両方を使って伝える方法を教える。また、自分の感情をコントロールする方法を教える。

人間関係の問題を解決する方法

他の人との葛藤や自分の思いどおりにならないような人間関係の問題を、どのような手順で解決すべきか教えて、それを実践できるスキルを身に付けるようにする。

ソーシャルスキル教育を進めていく手順は次の5段階になる。

インストラクション

対人場面での具体的振る舞い方、対人関係の中で機能している社会的ルールなどについて言葉によって教える。

モデリング

教えようとするスキルのモデルを示し、それを観察させ、模倣させる。モデルを示して、どこが適切なものか、意見を出させたり話し合わせたりする。

リハーサル

モデリングで示した適切なスキルを、子どもの頭の中、あるいは実際の行動で何回も繰り返し反復させる。

フィードバック

インストラクションに従って実行した行動や、モデリングやリハーサルで示した行動に対して、適切である場合には褒め、不適切である場合には修正を加える。

定着化

教えたスキルが日常場面で実践されるように促すこと。

以上の五つの方法は、互いに補完的関係にあるので、この順序にとられる必要はないが、一般的にはこの順番で実施すると効率的である。どの方法を実施するときも、教員は明るく温かい態度で臨み、楽しい雰囲気づくりを心掛けなければならない。児童生徒の感情を受け入れ、親しみのある声でゆったりしたペースで進めることが大切である。

(4) リラクゼーション

心身を十分に弛緩し、安静感を得ることにより、緊張や不安を軽減し、心理的な不適応状態を回復させるための方法である。代表的なものとしては、身体の温感や重感などを体験する自律訓練法、筋弛緩を体系的に行わせる漸進的弛緩法、身体の動きに関する動作課題を通して運動の主体者である心に働きかけて自己の活動に変化を促す動作法などがある。

3 心の教育と人間関係

心の教育を進めていく上での条件について、奥井(2000)は、「心の教育には、すべてに通用するような一般的な方法やルールはないというのが筆者の実感である。そこでは、一人一人の生徒と向き合い、その考えや悩みを聞き、喜怒哀楽に共感する教師と保護者の存在が必要である。」⁷⁾と、心の教育を進める上での教員と生徒の人間関係の大切さを述べている。

さらに、鹿児島県総合教育センター(2001)でも、「学校において、心の教育を実施していく基盤が揺れ動いていることが、子どもたちの現状に大きな影響を与えているとも言えるのではないだろうか。各学校では、これまでも学校教育活動全体を通して子どもたちに道徳性をはぐくもうと取り組んでいる。全教職員で生徒指導に取り組んだり、共に校内の環境美化に努めたり、地域ぐるみであいさつ運動を展開したりするなど、様々な活動を行ってきた。それにもかかわらず、現在これほど心の教育の充実が叫ばれているのは、まさしくそれらの教育活動を展開していく教師と子どもたちとの豊かな人間関係が十分築かれていなかったからではないか。教師と子どもとの信頼関係なしには、子どもの心に届く教育は展開できない。教師自身が豊かな人間性を持ち、子ども一人一人を肯定的に受け止め、温かくその成長を見守ろうとすることが、心の教育の原点である。」⁸⁾と、心の教育を進めていく上での、教師と児童生徒との信頼できる人間関係の大切さを述べている。このように、児童生徒と教員の人間関係を育てることは、心の教育を進めていく上では基本的な条件になると考えられる。

これらのことから考えると、教師と児童生徒の人間関係を育てながら、特別活動や総合的な

学習の時間などの活動を行ったり、道徳教育を行ったりすることが心の教育を進めていく上で大切であると考えられる。

教師と児童生徒の人間関係を育てる場合に、活動に付随して人間関係が育つ教育活動と、人間関係を育てることを意図して行う教育活動が考えられる。このことについて、諸富(1999)は「今、少数の子どもたちが形として現している問題から、多くの子どもたちが潜在的に持っている問題を類推し、子どもたちの心をこんなふうに育てていく必要があると考えて、こちらから積極的に打って出ることが求められてくるのです。」⁹⁾と、積極的な学校教育相談について触れて、心を育てるための意図的な活動の必要性を述べている。そして、相手を認めるとともに、自分の言うべきことを適切な仕方相手に伝えることができる人間関係の力を育てるために、まず教員が行うことは、苦しいときに「助けて」と子どもが声を上げることのできる関係、クラスの中で安心して自分を語ることのできる心理的に安全な雰囲気をつくることだと述べている。このように、心の教育を進めていくためには、教師と児童生徒の安心できる人間関係を意図的に育てる活動が必要であると考えられる。

教師と児童生徒の安心できる人間関係をつくるための教員の態度として、諸富は次の三つを挙げている。「無条件の積極的配慮とは『どんな相手でも好きになること』とは違う(中略)相手に心の中を自由に漂ってもらいながら、相手が表現するすべてのものに満遍なく(こちらで取捨選択することなく)注意を向けていくのです。(中略)共感的理解と言うと、あたかも相手になったかのような姿勢で相手の話を聴いていくこと、と一般には考えられています。しかし、『相手になったかのような姿勢で』聴くということは、至難のわざです。(中略)たまたま出会ったその人に、自分の心の空間の中で自由に漂ってもらっているうちに、こちらに実感として『伝わってくる』ことがある。それを『あなたが今言っているのは、～ということですか』『～だと考えていいでしょうか』『そうか、～、うんうん』といった姿勢で、丁寧に、その都度『確かめながら、耳を傾ける』こんな態度のこ

とを、共感的理解と呼んでいるのだと考えた方がいと思います。(中略)自己一致というのは、相手の話を聴きながら、こちらに実感として生まれていること、自分が今どんな感じがしているかに気付いていることだと言っていると思います。といっても、それが何であるかを相手に伝え返すかどうかは、また別の問題です。」

¹⁰⁾ このように、教師と児童生徒の人間関係を育てるためには、まず教師が一定の配慮をして児童生徒と心理的な接触を持つことが必要である。学校では、授業、休憩時間、放課後など様々な時間で教員と児童生徒が触れ合う機会があるが、すべての児童生徒に同じように触れ合うことができる機会の一つが定期教育相談(教育相談週間)である。

4 定期教育相談の進め方

心の教育を進めるために必要な教師と児童生徒の人間関係を育てる機会の一つとして定期教育相談が考えられる。

(1) 目的

- ・ 教員と児童生徒の人間関係を育てる。
- ・ 児童生徒理解を促進する。
- ・ 教員の思いを児童生徒に伝える。

(2) 内容

- ・ 進路相談
例 自分の希望する進路に進むにはどうしたらよいかについて相談する。
- ・ 学習相談
例 どのような勉強をすれば成績が良くなるかについて相談する。
- ・ 生活相談
例 どうすれば友達とうまく付き合えるかについて相談する。

(3) 主な支援の種類

- ・ 情緒的支援
例 自分の進路を親に反対されて冷静に判断できなくなっている生徒に対して、まずその気持ちを聞き、少し落ち着いて考えられるようにする。
- ・ 情動的支援
例 普通科高校に進学しようか、商業科に進学しようかと迷っている生徒に対して、学習する内容や卒業後の進路についての情報

を知らせて判断材料を提供する。

(4) 留意点

指示・命令・批判は控える

いきなり命令されたり、批判されたりすると自由に話せない。安心感がないと、人間関係は育ちにくい。

時間を守る

予定している時間より早く終わった児童生徒がいると、他の児童生徒が「早く終わってください」と言ったときに、その児童生徒を時間まで引き留める正当な理由がなくなる。また、一人の教員が予定より早く終わると、それを見ていた他の児童生徒が「面接は早く終わっていいんだ」と学習し、他の教員が予定していた時間まで面接を行うのが困難になりやすい。

あせらない

「何とかして児童生徒の気持ちを聞き出してやろう」と思うと、詰問調になることがある。「お互い嫌でない時間を過ごして、関係づくりのスタートにしよう」と考えると教員に余裕が生まれ、児童生徒が話しやすくなる。

(5) 実施方法

面接時間

児童生徒一人当たり10～15分

面接担当者

学級担任

実施時間

1週間程度の放課後の時間

事前準備

児童生徒用資料を配布する。(図1)

教員用資料を配布する。(図2)

教員研修を行う。

生徒のみなさんへ

月 日から教育相談週間が始まります。放課後に、みなさんは担任の先生に自分の話を聞いてもらう時間があります。といっても、一人10分ですが...

ところで、この時間はどんな時間なのでしょう？ お説教の時間ではないんですよ。

今のみなさんの気持ちや考えていることを先生に聞いてもらって、みなさんのことをも

っと分かってもらうチャンスです。

分からないことや、面白くないこと、困っていること、迷っていること、がまんしていることを先生に相談してみるのはいかがでしょうか。解決のヒントが見付かるかもしれませんよ。もちろん、話したくないことは話さなくてもいいのです。

先生たちも、みなさん一人一人のことを、今よりも分かりたいと思っています。

時間が短いので、話す内容を考えておいてもらえると助かります。このアンケートを書いて教育相談に来てください。

教育相談についてのアンケート

組 番 氏名

教育相談で話してみたいことを簡単に書いてください。幾つでもかまいません。

- 1 学習
- 2 進路
- 3 学級・班
- 4 部活動
- 5 友達
- 6 家庭
- 7 身体・健康
- 8 性格・行動
- 9 その他

図1 生徒配布用資料例

200X年度 第1回定期教育相談実施要項
中学校 教育相談係

1 目的

- (1) 生徒との人間関係を育てる。

- (2) 生徒理解を深める。
- (3) 生徒に教員の思いを知ってもらう。

2 期日

月 日 ~ 日 放課後

3 面接時間

一人10分程度

4 場所

普通教室

5 留意点

- (1) 一人一人の相談時間を同じにする。
- (2) 指示的・命令的な内容は避ける。
- (3) 生徒の気持ちを聞こうと焦らない。

・教員に対して安心感を持たないと、心の中は話さない。

・焦ると問い詰めるような話し方になりやすい。

6 こんな時どうする？

お互いにとって、嫌でない時間を共有するようにする。

- (1) 生徒が「話すことはない」と言った。

・「部活動の調子はどう」などと、生徒の話しやすそうな話題について質問する。

・「最近、気分の良かったことはないかな」などと、生徒の肯定感が高まるような質問をしてみる。

・「そうか、では残りの時間をどうやって過ごそうか」などと、時間の使い方を話題にする。

・「この前、君は黙々と掃除をしていたね。見ていて気持が良かったよ」などと、生徒の肯定的なことを話し、教員はあなたのことを見ているんだよということを知らせる。

- (2) 生徒が「これから話すことは秘密にしてください」と言った。

「秘密にできることはします。どうしても秘密に出来ないことは、あなたに断ってから人に話します」のように、安易に秘密を守る約束をしない。

図2 教員用資料例

- 5 研修用ビデオ「定期教育相談の進め方」の作成

(1) ねらい

今まで見てきたように、心の教育を進めていくためには、教師と児童生徒の人間関係を基盤として、構成的グループエンカウンター、グループワークトレーニング、ソーシャルスキル教育などの心理教育や、職場体験、生徒会活動などの様々な活動を行う必要がある。教師と児童生徒の人間関係は、教育活動の様々な場面で育てられるが、全ての児童生徒に対して、意図的・計画的に行われる活動の一つとして定期教育相談がある。定期教育相談は、多くの学校で行われているが、効果的に行われているとはいえないのが現状ではないだろうか。その理由として、時間の確保が十分出来ない、目的が明確でない、教員の相談技術が不足している、などが考えられる。教員の技術を高める必要性は多くの教員が感じているが、そのためにどのような研修を行えばよいかについては、今までほと

んど検討されていない。そこで、定期教育相談の基礎的な考え方と留意点を研修するための校内研修で使用できる研修用ビデオを作成する。

(2) 作成上の留意点

基本的な内容に精選して、分かりやすく伝える。

具体的な面接場面を示して、理解を助ける。

多忙な学校でも視聴できるようにするために、短時間の教材にする。

(3) 作成

ビデオ教材を以下の図3「定期教育相談の進め方 - 基礎編 -」のように作成する。作成に当たっては、当教育センター教育相談部の所員や長期研修員の協力を得た。

撮影に半日程度、編集に2日程度の時間を要した。

項目・テロップ	登場人物	内 容 ・ せ り ぶ
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-bottom: 10px;">定期教育相談の進め方</div> <p>1 目的</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-top: 10px;">人間関係を育てる</div>	解説者	<p>みなさん、こんにちは。今日は、定期教育相談の進め方について研修していきたいと思います。</p> <p>まず、定期教育相談の目的について考えてみましょう。定期教育相談は、学級のすべての児童生徒を対象に行うものですから、児童生徒との人間関係を育てることを第一に考えてはいかがでしょうか。「今度困ったことがあったら、この先生になら相談してみてもいいかな」というような気持ちを児童生徒が持ってくれば大成功だと思います。</p>
<p>2 面接の座席設定 (対面して座っている映像) (120度ぐらいに移動する)</p>	<p>解説者</p> <p>教員 生徒</p>	<p>次に、面接を行う場合の座席の位置について見てみましょう。</p> <p>対面する座席は、真剣に聞いてもらっているという感じは伝わりやすくなりますが、児童生徒が緊張しやすくなります。(座席を移動)そのような時には、90度から120度ぐらいの座席にすると、話しやすくなる人が多いようです。</p>

項目・テロップ	登場人物	内 容 ・ せ り ぶ
<div data-bbox="145 304 320 568" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>面接の始め方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任 ・中学校1年生 ・1学期の定期教育相談 </div>		<p>【場面設定】 教員：担任 生徒：中学校1年生 時期：1学期の定期教育相談</p>
<p>3 面接の始め方</p>	<p>解説者</p> <p>教員 生徒</p>	<p>では、面接を始めましょう。まず、定期教育相談の1場面をご覧ください。</p> <p>【面接場面1】 T1：お待ちどおさま。よく待ってくれたね。これから、10分間話を聞かせてもらいたいと思います。いいかな。 S1：いいですよ。 T2：何か話したいことはあるかな。 S2：特にありません。</p>
<div data-bbox="145 943 320 1111" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>時間を予告する</p> </div>	<p>解説者</p>	<p style="text-align: center;">（後略）</p> <p>いかがでしたか。 まず最初に「お待ちどおさま」と労をねぎらってから面接に入っています。次に「10分間」と面接の時間を決めていきます。このように、時間を決めることで、お互いに面接の時間に集中しやすくなります。</p>
<div data-bbox="145 1158 320 1323" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>面接の進め方</p> </div>	<p>解説者</p> <p>教員 生徒</p>	<p>次に、話の内容に入っていきます。では、場面2をご覧ください。</p> <p>【面接場面2】 T1：では、話を始めます。最近、どうですか。 S1：そうですね。どうと言われても何から話したらいいのかよく分かりません。 T2：では、最近何か楽しかったことやうれしかったことはありませんか。 S2：そうですね。この前部活動で、初めて先生に褒められたのはうれしかったです。 T3：そう。よかったらもう少し詳しく教えてくれないかな。</p>
<p>4 話の進め方</p> <div data-bbox="145 1641 320 1933" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「気になることは」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・悩みを話しやすい ・戸惑うこともある </div>	<p>解説者</p>	<p style="text-align: center;">（後略）</p> <p>いかがでしたか。 まず「気になることはありませんか」と、生徒が自由に答えられる質問をしています。これは、悩みなどの話したいことがある生徒の場合は、生徒の意志で自由に話すことが出来るので、話しやすくなります。ただ、話す動機の強くない生徒の場合は戸惑うことがあります。</p>

項目・テロップ	登場人物	内 容 ・ せ り ぶ
<p>「楽しかったことは」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 答えやすい ・ 詰問調になることもある 		<p>そのようなときには「楽しかったことは」のように、話しやすい内容に限定すると生徒も答えやすくなる場合があります。ただし、この場合は、問い詰めるようになることもあるので気を付ける必要があります。</p>
<p>話の終わり方</p>	解説者	<p>さて、続いて、話の終わり方を見てみましょう。</p>
<p>5 話の終わり方</p>	<p>教員 生徒</p>	<p>【 面接場面 3 】</p> <p>(前略)</p> <p>S1：先生ね。この前の日曜日に、近くの池にブラックバスを釣りに行って、30センチを超えるようなのを釣ったんですよ。</p> <p>T1：すごいなあ。</p> <p>S2：早起きしていったので、月曜日は眠たかったですけれど、今までで一番大きいのが釣れて気分が良かったです。</p> <p>T2：それはよかったな。</p> <p>S3：はい。すごく、引きが強くて大変でしたけど。先生は、バスを釣ったことがありますか。</p> <p>T3：先生は、海釣りしかしたことがないんだ。まだまだ話は続きそうだけど、今日は、約束の時間が来たので、続きは、休憩時間にも聞かせてもらえるかな。今日は、これで終わらせてください。いいですか。</p> <p>S4：はい。分かりました。</p>
<p>こんな時どうする</p>	解説者	<p>いかがでしたか。話の途中で切るときには、次へのつながりを確認してから終わらしましょう。</p> <p>また、話があまり出なかった場合は「また、気になることが出来たら教えてください」というように、いつでも教員が話を聞く準備があることを知らせて終わるようにしましょう。</p>
<p>5 生徒が話したがない時</p> <p>生徒が話したがない</p>	解説者	<p>さて、みなさんの中には、定期教育相談の時に、児童生徒が自分から話そうとしなかった経験をお持ちの方も多いと思います。そのような時には、どのような方法があるのでしょうか。面接場面を見てみましょう。</p>

項目・テロップ	登場人物	内 容 ・ せ り ぶ
<div data-bbox="153 779 312 943" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">生徒の興味 ・部活動 ・タレント ・アニメ等</div> <div data-bbox="132 1032 336 1106" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">7 同僚の悪口 を言われた時</div> <div data-bbox="153 1111 312 1240" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">同僚の悪口</div> <div data-bbox="153 1749 312 1912" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">生徒の気持ち を聞く 状況を聞く</div>	<p data-bbox="363 315 424 389">教員 生徒</p> <p data-bbox="363 779 453 808">解説者</p> <p data-bbox="363 1032 453 1061">解説者</p> <p data-bbox="363 1205 424 1279">教員 生徒</p> <p data-bbox="363 1711 453 1740">解説者</p>	<p data-bbox="523 315 724 344">【 面接場面 4 】</p> <p data-bbox="496 360 991 389">T1：何か話したいことはありますか。</p> <p data-bbox="496 405 632 434">S1：別に。</p> <p data-bbox="496 450 1257 479">T2：そうですか。では，先生から質問してもいいですか。</p> <p data-bbox="496 495 719 524">S2：いいですよ。</p> <p data-bbox="496 539 1257 568">T3：あなたは，休みの日はどうやって過ごしていますか。</p> <p data-bbox="496 584 1433 658">S3：この前の日曜日は，午前中は部活動の練習がありました。昼から家でごろごろしていました。退屈でした。</p> <p data-bbox="496 674 1257 725">T4：あなたは，サッカー部だったかな。練習はきついのか。 (後略)</p> <p data-bbox="496 786 1433 972">いかがでしたか。生徒が部活動に興味を持っているようだったら，部活動の話題から入ると話しやすいのではないのでしょうか。ほかにも「あなたは，どんな歌手が好きなのかな」とか「あなたの好きな漫画は何」のように，生徒が興味を持っている話題から話し始めると生徒は話しやすいのではないのでしょうか。</p> <p data-bbox="496 1032 1433 1151">さて，みなさん，生徒から同僚の悪口を言われて困った経験はありますか。そのような時には，どのように応答したらよいのでしょうか。面接場面をご覧ください。</p> <p data-bbox="523 1167 692 1196">【面接場面 5 】</p> <p data-bbox="916 1211 1018 1240">(前略)</p> <p data-bbox="496 1256 1433 1330">S1：先生，数学の先生は，原君ばかりひいきしているので，先生からやめるように言ってもらえませんか。</p> <p data-bbox="496 1346 1433 1420">T1：え，そうなの。自分だけが注意されていやだったのかな。もう少し様子を教えてくれないかな。</p> <p data-bbox="496 1435 1433 1509">S2：この前の授業の時，僕と原君が話をしていたら「おい，私語はやめなさい」と僕だけを注意したんですよ。</p> <p data-bbox="496 1525 1171 1554">T2：そうなの。それはどんな話をしている時なの。</p> <p data-bbox="496 1570 1043 1599">S3：えっと，何だったかな。忘れました。</p> <p data-bbox="496 1615 1406 1644">T3：そうか，では，先生から数学の先生に事情をきいてみようかな。</p> <p data-bbox="496 1659 1075 1688">S4：そこまでしてもらわなくてもいいです。 (後略)</p> <p data-bbox="496 1711 1433 1868">いかがでしたか。ここでは「自分だけが注意されて嫌だったのかな」とまず生徒の気持ちを受け止めようとしています。その後，必要であれば状況を詳しく確認して，対策を取ることが必要なこともあるでしょう。</p> <p data-bbox="496 1883 1433 1995">このような時に「それは，あなたの思い過ごしでしょう」と，すぐに決め付けるような応答をすると，生徒は「先生には話しても無駄だ」という気持ちになり，以後，困ったことなどを話してくれなくなる可</p>

項目・テロップ	登場人物	内 容 ・ せ り ぶ
<div data-bbox="153 349 312 479" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">秘密の保持</div> <div data-bbox="134 645 335 752" style="margin-bottom: 10px;">8 「秘密にしてください」と言われた時</div> <div data-bbox="153 1173 320 1361" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">安易な約束はしない</div> <div data-bbox="153 1608 312 1906" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">制作 岡山県教育センター</div>	<p data-bbox="363 443 453 474">解説者</p> <p data-bbox="363 645 424 712">教員生徒</p> <p data-bbox="363 1290 453 1321">解説者</p>	<p data-bbox="497 313 1439 389">能性があります。また、「それは、数学の先生が悪いな」と安易に同調すると、教員間の連携を崩すことがあります。</p> <p data-bbox="497 443 1439 555">さて、面接の途中で「先生、この話は絶対に秘密にしてくださいね」といわれたらどのように応答したらよいのでしょうか。面接場面をご覧ください。</p> <p data-bbox="497 645 699 676">【面接場面6】</p> <p data-bbox="916 685 1018 716">(前略)</p> <p data-bbox="497 725 1439 792">S1：先生、これから話すことは絶対に秘密にしてくださいね。約束してくれますか。</p> <p data-bbox="497 801 1439 904">T1：大切な話をしようとしているんですね。話を聞いてみないと分かりませんが、できるだけそうしようと思います。秘密に出来ない時は、あなたに断ってから話すようにします。</p> <p data-bbox="497 913 1439 981">S2：分かりました。では、話します。実は、この前、原君に殴られました。</p> <p data-bbox="497 990 1375 1021">T2：え、それはたいへんだ。もう少し詳しく教えてくれないかな。</p> <p data-bbox="497 1030 1439 1097">S3：この前の体育の後、更衣室で着替えていたら「おめえは、生意気なんじゃ」といって、いきなり殴ってきました。</p> <p data-bbox="497 1106 1168 1137">T3：それで、あなたは、思い当たることがあるの。</p> <p data-bbox="497 1146 833 1178">S4：特にないんですけど。</p> <p data-bbox="916 1182 1018 1214">(後略)</p> <p data-bbox="497 1290 1439 1482">いかがですか。このように、暴力に関する話が出た場合は、他の生徒へ指導する必要があります。本人の了解を得て、他の教員と相談の上、相手の生徒と話をする必要があります。その他、人権にかかわる内容や自殺、非行などの話は、保護者や同僚の協力を得て対応する必要があります。</p> <p data-bbox="497 1491 1439 1738">「実は、この前自殺しようかと思ったんです」と話されたら、とても面接を担当した教員だけでは対応できません。そのような時は「そのことは保護者の人に連絡して、一緒に考えてもらおうと思います。了解してください」のように話して、生徒の了解を取るようにします。秘密を守ることは大切ですが、状況によっては、秘密を守れない時もあるのではないのでしょうか。</p> <p data-bbox="497 1787 1439 1899">いかがでしたか。今日ここでお話したことは定期教育相談の一つのサンプルです。今後の定期教育相談に役立つことを期待しながら、今日のお話を終わりにしましょう。</p>

図3 定期教育相談の進め方 - 基礎編 -

6 ビデオ教材を使った研修モデル

(1) ビデオ教材の視聴のみ(20分)

目的

定期教育相談の基礎を知る。

研修方法

ア ビデオ教材を視聴する。

全校，学年でそろって視聴するのが望ましいが，個人で視聴して研修することも出来る。

イ 説明する。

視聴後，教育相談係が定期教育相談の実施方法について説明する。

利点

短時間で実施することが出来る。

課題

ア 基礎を知るだけなので，実際に定期教育相談で使えるかどうかは個人の力量に任される。

イ 視聴しただけなので，教員の理解にばらつきが出やすい。

(2) ビデオ教材の視聴と協議(60分)

目的

定期教育相談の基礎を理解する。

研修方法

ア ビデオ教材を視聴する。

全校，学年でそろって視聴するのが望ましいが，個人で視聴して研修することも出来る。

イ 協議する。

視聴後，教育相談係が中心になって，視聴した内容や今までの定期教育相談での課題について協議をする。

利点

ア 教育相談になじみの浅い教員でも参加しやすい。

イ 今までの経験と視聴した内容を比較して，今後の定期教育相談をどうしたらよいかの手掛かりを得ることが出来る。

課題

知的な理解が中心になるので，実際に定期教育相談で活用できるかどうかは個人の力量に任される。

(3) ビデオ教材の視聴と演習 1 (90分)

目的

定期教育相談の基礎を身に付ける。

研修方法

ア ビデオ教材を部分的に視聴する。

全校，学年でそろって視聴するのが望ましいが，個人で視聴して研修することも出来る。
イ 視聴の途中で，教育相談係が中心になって視聴した内容について演習をする。演習モデルを図4に示す。

- 1 演習のねらいを説明する。(5分)
 - (1) ビデオで視聴したことが，実際の相談場面で使えるようにする。
 - 2 演習の進め方を説明する。(5分)
 - (1) グループ分けをする(3人組)。
 - (2) 教員役，生徒役，観察役を決める。
 - (3) 相談場面のロールプレイングをする。
 - (4) グループごとに相談場面の振り返りをする。
 - (5) (3)～(4)を2回繰り返す。
全員が三つの役をする。
 - (6) 全体で振り返りをする。
 - (7) 相談場面のロールプレイングをする。
 - (8) グループごとに相談場面の振り返りをする。
 - (9) (7)～(8)を2回繰り返す。
全員が三つの役をする。
 - (10) 全体で振り返りをする。
 - 3 グループ分けをする。(10分)
 - (1) ウォーミングアップをする。
じゃんけんチャンピオンをする。
次々と相手を変えてじゃんけんを行い，3回勝った人から順番の席に座る。
 - (2) グループを作る。
座った席の順番に3人グループを作る。
 - 4 役割を決める。(2分)
 - (1) 教員役，生徒役，観察役のすることを説明する。
 - (2) 教員役，生徒役，観察役を決める。
 - (3) 2回目，3回目の役割も決める。
 - 5 相談場面のロールプレイングをする。(5分)
 - (1) 面接場面4までを視聴する。
 - (2) ビデオと同じように生徒が話しながら場面設定でロールプレイングを行う。
中学校1年生。1学期の定期教育相談。
教員役は学級担任。
 - 6 グループごとの振り返りをする。(3分)

- (1) 観察役，教員役，生徒役の順番で感想を話し合う。
- (2) 評価的になるとロールプレイングに対する抵抗感が高まるので留意する。
- 7 相談場面を繰り返す。 (15分)
5～6を2回行う。
- 8 全体の振り返りをする。 (10分)
- (1) グループの振り返りで話されたことで，全体に話しておきたいことや質問などを発表する。
- (2) 講師が適切なコメントを行う。
- (3) グループの数が多い場合は，いくつかのグループが代表で発表する。
- 9 相談場面のロールプレイングをする。 (5分)
- (1) 面接場面6を視聴する。
- (2) ビデオと同じように秘密の保持についての場面設定でロールプレイングを行う。
- 10 グループごとの振り返りをする。(3分)
- 11 相談場面を繰り返す。 (15分)
9～10を2回行う。
- 12 全体の振り返りをする。 (10分)
- 13 演習のまとめをする。 (5分)
全体の振り返りで発表されたことを中心に，相談をする上で気を付けることを整理する。

図4 演習モデル1

利点

テーマを絞って演習することで，研修した内容が実際の相談場面で出来るようになりやすい。

課題

- ア ロールプレイングに慣れていない教員は，演習に抵抗を感じることもある。
- イ 演習の進行や，振り返りのコメントをすることが出来る教員が研修の運営をする必要がある。
- ウ テーマに沿って行うため，教員個々の課題には対応出来ない場合がある。
- (4) ビデオ教材の視聴と演習2 (90分)

目的

定期教育相談の基礎を理解し，応用するため

の気付きを得る。

研修方法

- ア ビデオ教材を視聴する。
全校，学年でそろって視聴するのが望ましいが，個人で視聴しても研修することが出来る。
- イ 視聴後，教育相談係が中心になって，視聴した内容や今後の定期教育相談での課題について演習をする。演習モデルを図5に示す。

- 1 演習のねらいを説明する。 (5分)
- (1) ビデオで視聴したことが，実際の相談場面で生かせるようにする。
- 2 演習の進め方を説明する。 (5分)
- (1) グループ分けをする(3人組)。
- (2) 教員役，生徒役，観察役を決める。
- (3) 場面設定をする。
- (4) 相談場面のロールプレイングをする。
- (5) グループごとに相談場面の振り返りをする。
- (6) (3)～(5)を2回繰り返す。
全員が三つの役をする。
- (7) 全体で振り返りをする。
- 3 グループ分けをする。 (10分)
- (1) ウォーミングアップをする。
じゃんけんチャンピオンをする。
- (2) グループを作る。
座った席の順番に3人グループを作る。
- 4 役割を決める。 (2分)
- (1) 教員役，生徒役，観察役のすることを説明する。
- (2) 教員役，生徒役，観察役を決める。
- (3) 2回目，3回目の役割も決める。
- 5 グループごとに場面設定をする。(3分)
生徒役の人が，簡単に役割を決める。
例「中学校1年生の男子で，おとなしい性格の生徒をします」
- 6 相談場面のロールプレイングをする。 (5分)
- ・ 教員役，生徒役をしたら，どんな感じがするか体験する。
 - ・ 可能であればビデオで視聴したことを，試してみる。
 - ・ 観察役は教員役の応答を中心に見る。
- 7 グループの振り返りをする。 (5分)

- (1) 観察役，教員役，生徒役の順番で感想を話し合う。
- (2) 評価的になるとロールプレイングに対する抵抗感が高まるので留意する。
- 8 相談場面を繰り返す。(30分)
5～7を2回行う。
- 9 全体の振り返りをする。(20分)
- (1) グループの振り返りで話されたことで，全体に話しておきたいことや質問などを発表する。
- (2) 講師が適切なコメントを行う。
- (3) グループの数が多い場合は，幾つかのグループが代表で発表する。
- 10 演習のまとめをする。(5分)
全体の振り返りで発表されたことを中心に，相談をする上で気を付けることを整理する。

図5 演習モデル2

利点

自由に演習をすることで，相談場面での教員個々の気づきを得やすい。

課題

- ア ロールプレイングに慣れていない場合は，演習に抵抗を感じることもある。
- イ 演習の進行や，振り返りのコメントをすることが出来る教員が研修の運営をする必要がある。
- ウ 役割設定により演習内容にばらつきがやすい。

7 定期教育相談の進め方の研修例

(1) 校内研修(小学校)

はじめに

本校は，在籍数900名近い大規模校である。明るくのびのびと学校生活を送っている児童が多いが，不登校・遅刻傾向にある児童や自分の感情を抑えきれずに友達とトラブルになってしまう児童もいる。教職員は，児童理解の必要性や児童一人一人と関わることの大切さを共通理解している。

実践のねらい

本校では，定期教育相談を数年前から実施し

ており，教育相談の研修を毎年行っている。定期教育相談の進め方に対しては，教員一人一人の経験に根ざしている部分が多く，学級や学年間による違いも少なくなかった。そこで，研修のねらいを次のように設定した。

- ・定期教育相談の進め方について，基本的な配慮事項を知る。
- ・教育相談に対する理解を深め，児童との温かい人間関係の大切さに気付くようにする。
- ・教員が見通しを持って，ゆったりとした気持ちで児童とかかわっていけるようにする。

実践の内容

ア 事前研修

(7) 日時

平成13年11月16日(金)1630～1650

(1) 場所 視聴覚室

(2) 参加者 本校教員 27人

(3) テーマ 定期教育相談の進め方

(4) 内容

- A 説明「研修の進め方」 2分
まとまった時間の確保が難しいので，事前研修と校内研修に分けて実施することを説明する。
- B 視聴「定期教育相談の進め方」 13分
岡山県教育センター教育相談部指導主事が制作した「定期教育相談の進め方」のビデオ教材を視聴した。
- C アンケート記入 5分
- (4) ビデオ教材に関する感想(アンケートから)
ビデオ教材視聴後，ビデオ教材の内容に関する質問をした。結果は以下のとおりである。
ビデオを視聴して，定期教育相談についての考え方が整理できましたか。

おおいにできた	2人
できた	15人
あまりできなかった	3人
できなかった	0人

ビデオを視聴して，これからの定期教育相談に役立ちそうなことがありましたか。

たくさんあった	2人
あった	18人
あまりなかった	1人
なかった	0人

自由記述

自由記述の文章を、知的な理解が促進したと思われるもの、気づきを得たと思われるもの、今後さらに研修をしていきたいという意欲が感じられたものに分けて整理した。

【知的理解】

- ・教育相談に向けての基本的な配慮事項がよく分かった。(5人)
- ・どのような言葉掛けをしていくのか、どう対応すべきかが具体的に表現されていて、とても有効なビデオだった。(2人)
- ・話が続かない時や子どもが話したがらない時の話の聞き方などが参考になった。(2人)
- ・話の始め方の部分をヒントにしていきたい。
- ・ポイントが押さえてあり、初心者の私にとっても役に立った。
- ・実際に困ることに対して、どうすればよいかに的を絞った内容だったので分かりやすかった。今度の定期教育相談で参考になる。
- ・教育相談に取り組むための教員側の基本的姿勢がよく理解できた。また、教員の受け答えの仕方も参考になることが多かった。特に、秘密の保持に対する教員の心構え、安易に約束をせず児童の理解を得るとということが勉強になった。
- ・時間を予告することや、次への展開を決めて終わることなど参考になった。

【気づき】

- ・自分でも気を付けているが、ビデオを見ても「なるほど」と思えるところが多かった。
- ・児童の気持ちを和らげ、何でも話せる雰囲気をつくるのが大切だと再確認できた。
- ・今まで自分がやってきたことが間違っていなかったことを確認できた。
- ・やってはいけないことをやっていた自分に気付くことができた。もっと気づき(知り)たいと思った。
- ・教育相談をどのようにするかということだけでなく、子どもを尊重することなど日常の子どもとのかかわりで大切にしなければならないことが伝わった。

【研修意欲】

- ・なかなか心を開いてくれない子どもや、話題を提供しても言葉少なく答えるだけの子ども

の場合など、様々なケースについて、どうしたら実りある相談にすることができるかについてのアドバイスがほしい。(4人)

- ・例えば「秘密を守る」編では、実際はもっと複雑で対応に迷うことも多い。そこをもっと掘り下げて、対応策などについても具体的に触れてもらえると有り難い。(2人)
- ・表情や声の出し方・抑揚など、話の内容だけでなく二次的なものも含めて教えていただくと有り難い。
- ・子どもの警戒心とか緊張感をほぐすようなテクニックや姿勢が知りたい。
- ・話だけではなく、ゲームなどを通して楽しく取り付きやすい個別面接の方法も知りたい。

イ 校内研修

(7) 日時

平成13年11月20日(火) 15:00～17:00

(1) 場所 視聴覚室

(2) 参加者 本校教員 31人

(3) 講師 大学助教授

(4) テーマ 児童理解と人間関係体験学習

(5) 内容

A 講義1「自己実現の過程と教師や親の役割」 「面接相談の実際」 70分

事前研修の感想などを基に「自己実現の過程と教師や親の役割」と「面接相談の実際」について講義を聞く。「面接相談の実際」は、聞くための技法について、講師と参加者の一人がロールプレイングをしながら進めた。「場面構成」や「質問」「単純な受容」「内容の再陳述」など、事前研修で視聴したビデオの内容に触れた説明もあった。さらに、「感情を表す言葉」「沈黙の破り方」「感情の反射」「感情の明確化」「支持・感動を伝える」「自己一致」などについても説明を受けた。

B 演習「人間関係体験学習プログラム」40分

児童相互で温かい人間関係を築くために、体を動かし、楽しく活動する「人間関係体験学習プログラム」を参加者全員が体験した。「ストローク・トレーニング」「出会い」「瞬間接着剤」「鏡になる」「プレイキング・アウト」などの活動を通して、参加者の表情が和み、会場の雰囲気も温かくなった。

また、参加者全員が2人組を作り、役割を交代しながら、聞くための技法を意識してロールプレイングをした。自分の話を聞いてもらったり、相手の話を聞いたりする体験を通して、心を込めて聞くことが相互の人間関係を深めることに気付いた。

C 講義2「バウムテスト」 30分

参加者自身がバウムテストを行い、自己の一面を知る。そして、バウムテストを児童に実施することによって、日常の観察の確かめや指導の手掛かりに利用できることを知った。

実践のまとめ

ア 研修後の感想

定期教育相談後にアンケートを行い、事前研修や校内研修が定期教育相談や日々の教育実践にどのように役立ったかについて質問した。結果は以下のとおりである。

今回の研修で、定期教育相談についての考え方が整理できましたか。

大いにできた	8人
できた	13人
あまりできなかった	0人
できなかった	0人

今回の研修で、定期教育相談の進め方について気付きがありましたか。

大いにあった	7人
あった	14人
あまりなかった	0人
なかった	0人

研修が今回の定期教育相談に役立ったことがありましたか。

たくさんあった	7人
あった	15人
あまりなかった	0人
なかった	0人

自由記述

事前研修、校内研修のどこが今回の定期教育相談に役に立ったかについて質問した。

- ・ビデオで見た「お待ちどおさま」の一言、席の工夫、信頼関係のことなど。(4人)
- ・話題の出し方、言葉の掛け方など。(3人)
- ・子どもの話を聞く時の対応の仕方。(2人)
- ・相手があまり話さない時の対応方法。

- ・うなずき共感する姿勢で子どもの話を聞くことの大切さ。
- ・「自己実現の過程と教師や親の役割」の講義の内容。
- ・教育相談についての心構え。
- ・子どもに対する接し方、問い掛けなどに改めて、気を付けて話してみた。
- ・スキンシップの仕方、話の仕方など。
- ・相手がリラックスして話せる対応の仕方。
- ・人間関係づくりの方法。

イ 成果

今回のビデオ視聴は校内研修でとても有効であると思われる。

- ・時間が短く内容が精選されているので、研修計画が組みやすく、慌ただしい中でも、快く研修に参加してもらえた。
- ・当日の全体研修に途中から参加した教職員や参加できなかった教職員がいたが、後から手軽に視聴することができ、個別に研修に参加することができた。
- ・映像や言葉を通して具体的にイメージしやすいので、全教職員の共通理解を図りやすかった。特に、相談時間を守ることや児童への対応の仕方などは、定期教育相談の時に生かされていた。
- ・基本的なことを具体的にまとめてあるので、20歳代の経験の少ない担任にとって、とても有益であった。
- ・ベテランの担任にとっても、自分のこれまでの取り組みでよいことを再確認するきっかけとなった。
- ・基本的なことに絞ってあったので、「もっと知りたい」「ここを詳しく」という意欲を引き出し、その後の研修に結び付いた。

ウ 課題

ビデオを視聴した後、参加者の気付きや疑問をその場で全体のものに出ていけば、さらに有益であった。研修時間を確保し、気軽に意見交換できるようにしたい。

また、研修の内容が盛りだくさんになり過ぎ、面接の実際場面を想定したロールプレイングの演習などが十分できなかった。校内研修の年間計画の中に教育相談の研修を位置付け、継続的に研修を行い、教職員一人一人の持ち味を生かした指導力を高めていきたい。

(2) 校内研修(中学校)

はじめに

本校は生徒指導，生徒会活動，部活動に力を注いでおり，生徒は比較的落ち着いて学校生活を送っている。不登校問題は，本校でも重要な課題である。本校では，学期に1回教育相談旬間を設け，学級担任と生徒との定期教育相談を行っている。この定期教育相談の在り方を見直すことによって，不登校を未然に防ぐことはできないかと考え校内研修を計画した。

実践のねらい

まず，1学期の定期教育相談終了後，学級担任の先生が面接場面でどんなことに困っているかについてアンケート調査を行った。その結果「沈黙してしまう生徒に対してどうすればいいか困った」「教員批判をする生徒にどう反応していいか困った」「生徒が自分で解決方向を見いだすように会話を進められない。自分が解決策を言うってしまう」などの悩みが多かった。また，座る位置など面接を始める際の留意事項を知りたがっている教員もいた。そこで，充実した定期教育相談にするために「定期面接相談の進め方」のビデオをあらかじめ視聴し，その後スクールカウンセラーによる校内研修「聴き方演習」を行った。

実践の内容

ア 事前研修

- (ア) 時期 平成13年10月中旬 放課後
- (イ) 視聴形態 学年団ごと
- (ウ) 参加者 本校教職員 23名
- (エ) テーマ 定期教育相談の進め方
- (オ) 内容

A 視聴

岡山県教育センター教育相談部指導主事が制作した「定期教育相談の進め方」のビデオ教材を視聴した。

B アンケート記入

(カ) ビデオ教材に関する感想(アンケートから)

ビデオ教材視聴後，ビデオ教材の内容に関する質問をした。結果は以下のとおりである。

このビデオを見て定期教育相談についての考えが整理できましたか。

大いにできた	3人
できた	14人

あまりできなかった	3人
できなかった	1人

このビデオを見て，定期教育相談の進め方について気付きがありましたか。

大いにあった	3人
あった	13人
あまりなかった	4人
なかった	1人

このビデオを見て，これからの定期教育相談に役立ちそうなことがありましたか。

たくさんあった	2人
あった	14人
あまりなかった	3人
なかった	2人

面接の進め方(デモンストレーション)の内容はいかがでしたか。

とてもよい	0人
よい	10人
あまりよくない	10人
よくない	2人

自由記述

- ・教育相談で気を付けるべきポイントがよく分かった。
- ・実際にどのような言い方をすればよいのか困ることがあったが，表現の例示があったのでこれからの教育相談に生かしていきたい。
- ・最初に「お待ちどおさま」と言うのは良かった。
- ・生徒役はやはり生徒を使ってほしい。
- ・いろんなパターンを想定した方がよいと思った。
- ・もう少し実際の場面に近いようにしたらよいと思う。
- ・同僚の悪口，秘密厳守について分かったが，もう少し現実的なデモンストレーションの方がよい。
- ・もっと多くの事例を出してほしい。
- ・基本的過ぎる。どのように答えるかについての事例の方がよい。
- ・現実味がない。背景が気になる。
- ・場所の設定は，机がない方がいいのでしょうか。
- ・登場人物が分かるように名札を付けたらいい

のではないか。

- ・実際の面接では自分のことをペラペラ話してくれる子どもの方が少ない。対話出来にくい子どもとの関係づくりや沈黙の意味が含まれると内容が深まると思う。

イ 校内研修

(ア) 日時 平成13年12月7日(金)15:00～16:00

(イ) 場所 図書室

(ウ) 参加者 本校教員23名

(エ) 講師 本校スクールカウンセラー

(オ) テーマ 聴き方演習

(カ) 内容

A 講義「かかわり行動 非言語が伝えるもの」
教員が現実の相談場面で知りたいことのうち、ビデオ教材には説明されていなかったことをテーマとして選んだ。

B グループ作り

心の中で「ライオン、トラ、ウサギ」のいずれかを考えて言葉を使わずにグループを作ってみる。

C 演習「聴き方」

カウンセラー役とクライアント役が面接をしているところをオブザーバー役は評価用紙に記入しながら観察した。その後オブザーバー役は評価用紙を1分間で記入し、その内容を2分間でカウンセラー役とクライアント役に伝えた。

D ビデオでの振り返り

1グループの面接場面をビデオで撮影して振り返った。その際、「沈黙する生徒に対してはどう対処すればよいか」という質問があり、その答えとして「沈黙の種類を見極めることが大事である」という説明が講師からあった。

実践のまとめ

ア 研修後の感想(研修後のアンケートから)

参加者全員が校内研修で参考になることがあったかという質問に対して「あった」と答えた。役に立った内容は以下のとおりである。

- ・言葉だけじゃないんだということが分かった。
- ・常に誠実に対応することが大切ということ。
- ・ロールプレイングをして、悩んでいる子どもの気持ちが少し分かった。
- ・視線や態度などが大切だと分かった。
- ・一瞬でも心をオープンに出来たのでフラストレーションが減った。

- ・表情、かかわりの大切さ、非言語の意味を再確認できてよかった。
- ・初めの声掛けが大事だということが分かった。
- ・生徒が話し掛けやすい状況をつくることの大切さが分かりました。
- ・会話のつなげ方、間の取り方などが分かった。

イ ビデオ視聴の効果

ビデオ視聴(事前研修)した後、校内研修を行ったことで研修がより深まったと答えた参加者は半数だった。その理由としては「ビデオを見たことによって、日ごろ自分が困ったり知りたいと思っていたりしたことが再確認出来たので、校内研修での講義や演習に積極的に参加できた」という感想があった。

ウ 成果と課題

参加者全員が「校内研修で参考になることがあった」と答えていることなどから、校内研修で定期教育相談を取り上げたことによって教員の定期教育相談への意識が高まったと思われる。また、研修後に個別に聞いた話から、実際の面接場面で、生徒から話を引き出せずに困った自分や、解決策を急いでしまう自分に気付き、より良い聴き方はないかと考えるきっかけとなったように思われる。そして、校内研修の場でその解答を見付けようとしたり、積極的に演習に取り組もうとしたりする姿勢が見受けられた。これらから、ビデオ視聴は、校内研修を効果的に行うための動機付けとなったと考えられる。

ただ、ビデオ教材は基礎的な内容だったので、ある程度教育相談の研修をしている教員にとっては、十分ではなかったと思われる。

(3) 初任者研修(中学校)

はじめに

本研修は、岡山県教育センターが行う初任者研修講座の課題別研修「教育相談分科会」で行った。参加者は、教育相談の分科会を希望して参加している。この分科会では、5月に教育相談を基本にした生徒理解の講義と構成的グループエンカウンターの演習を行っている。

実践のねらい

生徒との関わり方の一つである定期教育相談の進め方を知る。

実践の内容

ア 研修の概要

- (7) 日時 平成13年11月29日(木) 10:00 ~ 12:20
- (1) 場所 岡山県教育センター第一研修室
- (ウ) 参加者 6名
- (I) 講師 教育相談の研修を積んだ中学校教員
- (オ) テーマ 定期教育相談の進め方
- (カ) 内容

- A ビデオ視聴「定期教育相談の進め方」 13分
岡山県教育センター教育相談部指導主事が制作した「定期教育相談の進め方」のビデオ教材を視聴し、次のような感想があった。
- ・生徒理解という面は知っていたけれど、生徒の教員理解の場でもあるということに驚いた。
 - ・相談をするときの距離についてのビデオを見て話す時に接触してくる生徒にどう接したらいいかが自分の課題だと気が付いた。
 - ・話を続けるのが難しい生徒のことが浮かんた。
 - ・時間を守るのは大切なことが分かり、自分の課題がはっきりした。
 - ・受け身で聞いているつもりなんだけど「～じゃねえんか」と先にいろんなことを言うてしまう自分に気が付いた。
 - ・余裕が大切だということが分かった。
 - ・「秘密にしてね」と言われて、困った体験があるので秘密保持の話は参考になった。

B 演習「定期教育相談」

(A) 面接する位置の体験

ビデオ視聴での参加者の感想を基に、安心できる二者の位置を見付け出し、その感覚に個人差があることを体験した。

(B) 面接の演習

3人組を作り、ロールプレイングの技法を使って、定期教育相談の演習を行った。面接時間は3分、振り返り3分で役割を交代しながら、3回通り繰り返した。

まず、教員役・生徒役・観察者を決め、各グループで教員役が中心になって、例えば、「学級担任としゃべらず反抗的な態度をとる中学校2年生の女子生徒」のように場面設定をする。その後、各参加者がビデオ教材を見て自分のイメージや課題意識で互いの位置、机の有無等の設定をしていった。中には、外を眺めながら肩

を並べて話す体験をするグループもあった。場面設定の希望が特でない場合に備えて、ワークシートに場面設定を準備しておいた。次に、面接を行い、続いて振り返りを行った。

(C) 全体での振り返り

各自が体験を通しての感想や気づきを話した。「話したがらず教員から顔を背ける女子中学生」を演じてほしいと希望した男性教員と生徒役を演じた女性教員のグループの話が中心となった。女性教員の気持ちを聞き、参加者が「同じような体験があって、あいさつだけは欠かさずに続けていたら関係が改善してきた」「私なら生徒にかかわり方を教えてもらうかな」などの話が出た。また、「周囲の教員から情報収集したり、援助を依頼したりする」などの発言があった。さらに、生活記録ノートなどで日々の声掛けを積み重ねることなどを話し合った。

実践のまとめ

ア 研修後の感想

研修後に、ビデオ視聴と演習について質問した。結果は以下のとおりである。

今回のビデオを見ての研修で、定期教育相談についての考え方が整理できましたか。

大いにできた	1人
できた	5人
あまりできなかった	0人
できなかった	0人

今回の研修で、定期教育相談の進め方について気づきがありましたか。

大いにあった	2人
あった	4人
あまりなかった	0人
なかった	0人

【自由記述】

- ・今まで「教育相談」というものはおぼろげなイメージしかなかったが、ビデオを見て演習をすることによってどういうものがよく分かった。教育相談は生徒指導において欠かせないものだということが実感できた。
- ・話の進め方の難しさを痛切に感じました。話をしてくれる子、話をしてくれない(はい、いいえくらいしか言わない)子がいる中で、どう会話していくか、開かれた質問・閉ざされた質問を交えながらの話を勉強したい。

- ・特に「時間を守る」ことの大切さ，秘密の要求に対する姿勢など，ビデオで見た後に体験してこちらのゆとりがいかに重要かを実感しました。こちらに心のゆとりがなければ，実のある定期教育相談が出来そうにないなあと感じました。
- ・相談の時，教員と生徒の位置関係についてもう少し気を付けないといけないなと思った。
- ・時間の設定を伝えることの大切さが分かった。
- ・時間について，今までは全く気にしていなかったが，時間の長さも生徒が見ていると認識しました。

今回の研修で，これからの定期教育相談に役立ちそうなことがありましたか。

たくさんあった	3人
あった	3人
あまりなかった	0人
なかった	0人

【自由記述】

- ・ゲームしたり，何もしなかったりということがあっていいんだというのが分かった。あまり気負わず出来そうだなと思った。それから「人間関係をつくる一つの手段」であって，私を理解してもらおう場でもあるということが分かって安心した。
- ・実習で具体的な課題が見つかった。
- ・時間を守るためのグッズはすぐに利用出来そうでうれしいです。つい時間がオーバーしがちなのでタイマーはいいなと思いました。また二人の席をどれくらい近付けるか体験してみようというチャレンジでは自分が案外接触に弱いんだということが分かりました。生徒に触られることに敏感過ぎるかもしれないですが，今後の課題にしたいです。
- ・話さない生徒には無理に話をさせるのではなくただぼーっと時間を過ごすのもいいなと思いました。
- ・ゲームをして遊ぶことも教員と生徒の相互理解につながる事が分かった。10分間一緒に過ごしたいんだという気持ちを伝えることの大切さが分かった。
- ・自分の経験から何となくこうあるべきだというのがあったが，今日の研修で整理できたように思う。

今回の研修の進め方はいかがでしたか。

とても良い	1人
よい	5人
あまり良くない	0人
良くない	0人

- ・ビデオを見て理解した上で演習をしたのが良かった。
- ・ビデオ視聴の後，実際に体験できたのは良かったです。模擬カウンセリング相談も見なかった。
- ・ビデオで教育相談の進め方を勉強して，その後実際にロールプレイングしたのは良かったです。
- ・ゆったりしていて良かった。
- ・時間が短く感じた。

全体を振り返って

- ・ロールプレイングで，生徒役の先生に「私(教員役)に相談のスタートで何を聞かれるのか大変緊張する」と言われたのがとても印象的だった。生徒が答えないのではなく，教員が答えにくくしているのではないかと気付き，こちら側の質問を見つめ直さなければと思いました。
- ・教育相談の在り方について勉強になりました。現実にはなかなか実践するのは難しいこともあるかもしれないけれど，自分の課題を見付けるいいチャンスになりました。
- ・はじめて教育相談の演習をして緊張はしたけど有意義だった。一人一人違う反応(予想できない反応)が返ってくるものだと思っただけでも大収穫です。
- ・生徒役・教員役・観察者といろいろな立場になれてよかったです。特に，生徒の気持ちになってみると生徒が普段取る行動が少しうなずけるような気もしました。
- ・同じ初任者同士でロールプレイングをするので，思い切ってすることもできるので良いと思った。何がいいのかわ悪いのかははっきりしないような内容は，振り返りがあいまいで終わってしまう感じがした。

イ 成果と課題

ビデオ視聴によって，自分の考えを整理できたという意見が多いので，視聴だけでも知的な理解には効果があると考えられる。そして，今回のように，ビデオ視聴の後に，体験的な内容の研修を行ったことは，「ビデオで見た後に体

験してこちらのゆとりがいかに重要かを実感しました」「ビデオで教育相談の進め方を勉強して、その後実際にロールプレイングをしたのは良かった」などの感想に見られるように、研修の成果を実践につなげやすくしたと考えられる。「開かれた質問・閉ざされた質問を交えながらの会話をもっと勉強したい」「実習で具体的な課題が分かり良かった」などのように、各自の課題を確認し、今後の研修意欲につながるような感想が見られたのは、知的理解と体験的内容を組み合わせたことによる効果ではないかと思われる。また、「同じ初任者だったので、思い切って演習をすることができたので良いと思う」という感想が見られるように、今回は初任者という似たような立場の教員による集団だったことや、第1回目に構成的グループエンカウンターを行っていたために、安心できる集団で研修することが出来たことで、研修の効果を高めることが出来たのではないかと思われる。さらに、今回は、教育相談の研修を積んでいる教員が講師をしている上に、教育センター教育相談部の所員が助言者として加わっているため、参加者の質問などにも適切に対応できた。以下に、今回の研修が効果を上げた要因を整理する。

- ・初任者のニーズとビデオの内容が合っていた。
- ・知的理解の後に、体験的な内容を研修するプログラムで行った。
- ・経験豊かな講師が適切な進行をした。
- ・安心できる集団で研修することができた。

課題としては、今回各自が持った課題を、教育実践の向上にどのようにつなげていくかということであろう。

8 研修例から学ぶもの

(1) ビデオ教材の内容

研修例1の小学校の校内研修ではビデオ視聴後のアンケートで、8割以上の参加者が「考え方を整理できた」「役に立ちそうなことがあった」と答えて、自由記述でも「教育相談に向けて基本的な配慮事項がよく分かった」のように、肯定的な内容が多かった。これは、定期教育相談の経験が比較的浅い小学校では、基本的なことを中心にまとめた今回のビデオ教材の内容

が、参加者のニーズにおおむね合ったためではないだろうか。研修例3でも、すべての受講者が「考え方が整理できた」と答えており、基礎的な内容が中心のビデオ教材が教員経験の少ない初任者のニーズに合ったようである。それに対して、研修例2の中学校での校内研修では、「もう少し現実的に表したらよい」「どのように答えるのかの事例の方がよい」などと、もっと応用的な内容を求める声があった。これは、今回のビデオ教材が基礎的な内容が中心のため、定期教育相談の経験をたくさん積んでいる教員には、もう少し複雑な内容のビデオ教材が必要なのであろう。このことから、参加者の定期教育相談の経験や、教育相談の研修経験に応じた内容のビデオ教材を開発する必要性がうかがえる。また、今回のビデオ教材を定期教育相談の経験豊富な教員の研修に使う場合は、基礎の確認という目的で視聴し、演習で応用的な研修を行うことが大切であろう。

(2) 研修の進め方

すべての研修例で、ビデオ視聴の後に演習を含んだ内容の研修をしている。比較的定期教育相談の経験の少ない教員が含まれる研修例1では、講師がビデオ教材を事前に視聴して、講義や演習の中でビデオ教材の内容との関連についても触れながら研修を進めている。そのことによって、基本的なことをより確実に研修するとともに、教育活動全体に広がるような研修になっている。定期教育相談の経験豊富な教員が多い研修例2では、ビデオ教材で触れてない非言語の効果について研修を行い、発展的な演習内容にしている。初心者を対象にした研修例3では、ビデオ教材の内容をそのままロールプレイングで体験し、基礎を身に付けるための演習を行っている。このことにより、研修内容がより実践につながりやすくなると思われる。

このように、参加者の教員経験、定期教育相談の経験、教育相談の研修経験などの実態を把握し、それぞれのニーズに応じた研修の進め方をすると、研修効果が高まるとと思われる。可能であれば、基礎コースと応用コースに分けた校内研修を企画することができると、より効果的な研修にすることができるとであろう。

おわりに

平成14年1月17日の文部科学省の確かな学力の向上のための2002アピールでは「『心の教育』の充実と『確かな学力』の向上とが教育改革の特に重要なポイントであり、とりわけ、今の学校教育における大きな課題であると考えております」¹⁾と述べられており、心の教育の必要性はますます高まっている。そのような中で、本研究では、心

の教育が効果的に行われるための基本的な条件の一つとしての、児童生徒と教員の人間関係の促進に関する研修方法を提案した。今後は、どのような活動を行って心の教育を進めていくかという研究と併せて、教員がどのような研修をすれば、より効果的に心の教育を進めていくことが出来るかについてもさらに研究を進めていく必要がある。

引用文献

- 1) 文部省：中学校学習指導要領（平成10年12月）解説 - 特別活動編 - ，ぎょうせい，p.4，1999
- 2) 文部省：中学校学習指導要領（平成10年12月）解説 - 道徳編 - ，大蔵省印刷局，p.3，1999
- 3) 押谷由夫：心の教育をどう展開するか，指導と評価1月号（516号），日本図書文化協会，p.4，1998
- 4) 児島邦宏：小学校における心の教育，心の教育の基礎・基本，学校教育研究所，pp.3435，2000
- 5) 岡林春雄：心理教育，金子書房，p.41，1997
- 6) 同上書，p.41
- 7) 奥井智久：中学校における心の教育，心の教育の基礎・基本，学校教育研究所，p.39，2000
- 8) 鹿児島県総合教育センター：心の教育に関する研究，研究紀要第97号，p.17，2001
- 9) 諸富祥彦：学校現場で使えるカウンセリングテクニック上，誠信書房，p.5，1999
- 10) 同上書，pp.22-25

参考文献

- ・横浜市学校 GWT 研究会：学校グループワークトレーニング，遊戯社，1989
- ・石隈利紀ほか：スクールカウンセリング事典，東京書籍，1997
- ・石隈利紀：学校心理学，誠信書房，1999
- ・学校現場で使えるカウンセリングテクニック上，誠信書房，1999
- ・國分康孝：続構成的グループ・エンカウンター，誠信書房，2000
- ・山中寛・富永良喜編著：ストレスマネジメント教育基礎編，北大路書房，2000
- ・学校教育研究所：心の教育の基礎・基本，学校教育研究所，2000
- ・菅野純：教師のためのカウンセリングワークブック，金子書房，2001
- ・原範幸：学校カウンセラー養成のための初級研修プログラムに関する研究 岡山大学大学院修士論文，2001（未公刊）

Web ページ

- ア) 文部科学省 http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/index.htm
- イ) 同上

平成12・13年度岡山県教育センター個人研究
小・中学校教育相談委員会

協力委員

米 倉 伸 幸	岡山市立吉備小学校教諭
高 田 清 美	総社市外二箇村中学校組合立総社西中学校教諭
岡 田 佐代子	御津町立御津中学校教諭

なお、岡山県教育センターでは、次の者が本研究に当たった。

原 範 幸 教育相談部指導主事（主幹）

平成14年2月発行

心の教育を行うための教員研修に関する研究

編集兼発行所 岡山県教育センター
〒703-8278 岡山市古京町二丁目2番14号
TEL (086)272-1205
FAX (086)272-1207
URL <http://www.edu-c.pref.okayama.jp/>

